

利尻山登山道等維持管理連絡協議会との連携強化について

新しい組織・しくみ－検討部会（仮称）－のイメージ

利尻山の自然環境保全と登山利用に関するシンクタンク

<組織の目的・役割>

- 山の環境保全のために地元ができることを企画立案し、利尻山本来のあるべき姿を将来にわたって指し示す

現在の協議会にない機能を担う・補完する	必要な対策を実現化できる形で提案する
専門家的に適切な意見を提案する	将来ビジョンを描き、事業計画(一部)を企画立案する

<主要メンバーの人材>

- 現場(登山道の現状・利用状況等)を知っている人
- 山の状況に関心のある人
- 機動力のある人
- 地元以外の人・専門家等は、調査や勉強会、ゲスト参加などの機会を通じて

<機能>

- 対策の企画立案
- 対策実施に向けた調整
- 実施した対策の検証
- 現状把握・情報収集
- 山の自然環境・事業の記録とその公開・発信

<活動>

- 定例会・勉強会(集まりやすい日時で)
- 日常的な情報収集、情報交換、提案・協議
- 対策実施後の点検・検証
- 年報の編集・出版(最低限の体裁で)

少人数の地元主要メンバーで効率的に意見集約しながら、外からの様々な意見・アイデアを取り入れられる形に
《間口の広い組織》

テーマにそって自由に意見・アイデアを出し合える場
構成メンバーの肉体的・精神的負担を考慮する

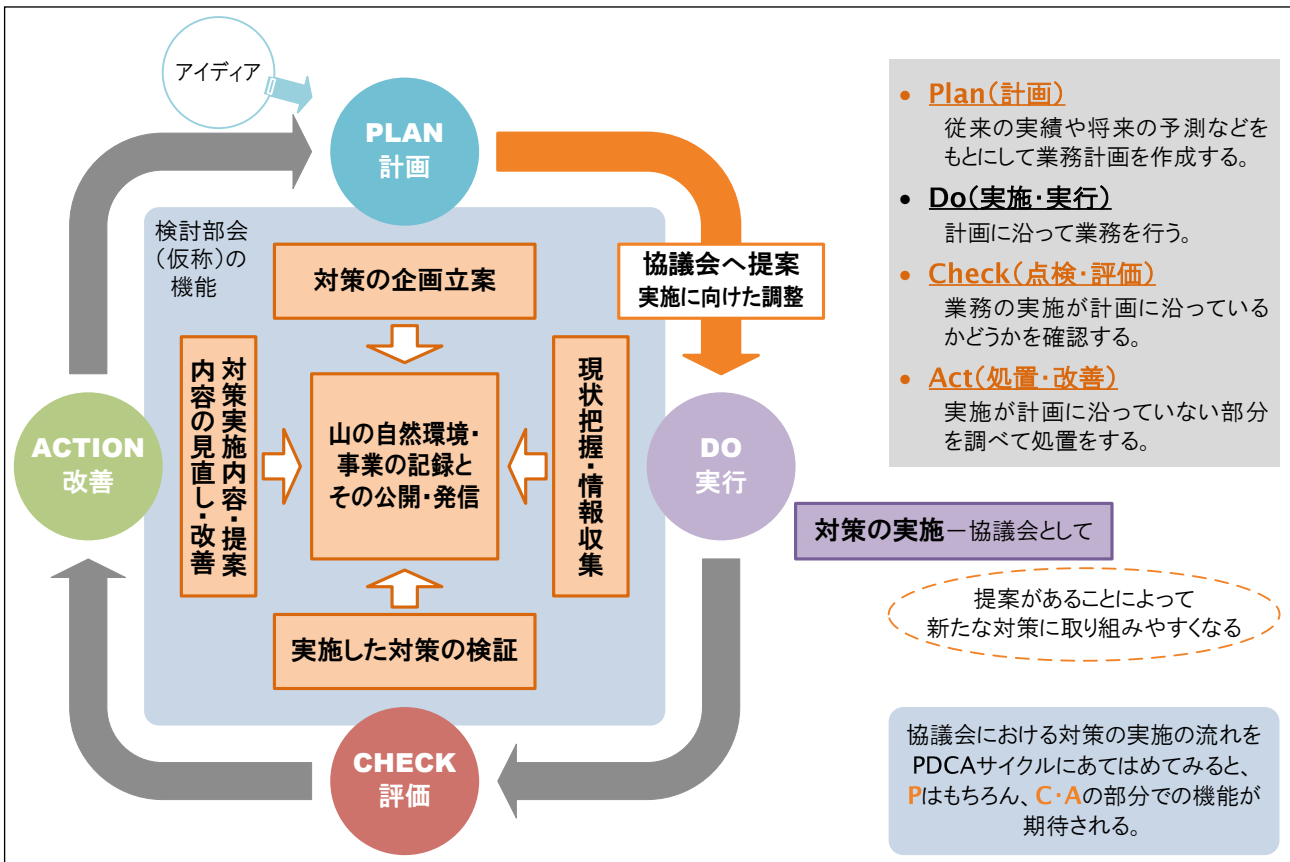


図 協議会における対策実施の流れの中での検討部会（仮称）の機能イメージ

新しい組織・しくみを検討する上での視点・課題

[新しい組織・しくみを検討する上で重要と考えられる視点]

- **ビジョンを明確に指し示す活動の継続性**
- **協議会における提案・意見の反映されやすさ**

■ 組織の立ち上げ

- 構成メンバーの人選
 - 多忙な人が多く、山のことを常に考えることができる人がいない
 - 主要メンバーとは
 - 組織の規模（人数）
 - 公募するかどうか
 - ボランティアとするかどうか
 - 連絡がとりやすい、参集できることを条件とするのか
- 誰が発起人（？）になるのか
- 行政機関とのつながり

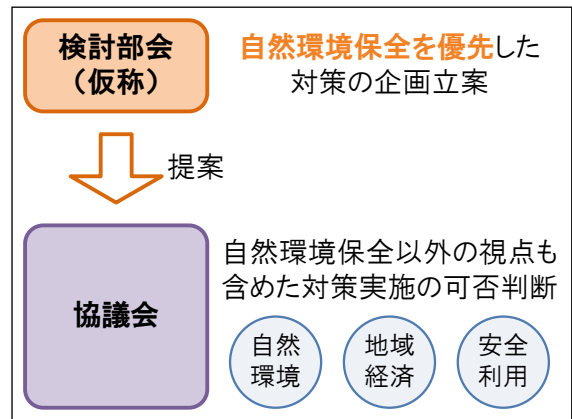
■ 継続性のある活動とするためのしくみ

- 機能や活動について
 - 企画提案だけでなく、対策の実施まで考えるのか
 - 活動の拠点
 - 活動予算
 - 自由に意見・アイデアを言える場とはどのようなものか
 - 関係機関のつながり、専門性をもつ人に即時に相談できるようなネットワーク
- メンバーにかかる負担の軽減・分散（低負担・高パフォーマンスの活動を目指して）
 - 効率的にメンバー間の連携・情報交換を図るための手段
 - 役割分担（時期、得手／不得手、立場・所属 etc.）
 - 専属スタッフの配置
- メンバー以外の意見・アイデアの取り入れ方（調査会、勉強会 etc.）
 - 島民
 - 地元以外の人
 - 専門家・研究者等
- 活動内容・提案内容が協議会の中で活かされるために
 - 協議会に対する提案のしくみ（※資料4参照）
 - 検討部会（仮称）代表の協議会における発言権・議決権（協議会の正式メンバーとして）
- 独自の民間組織とするのか、協議会や行政の下部組織とするのか（※次頁参照）

■ 協議会との関係

検討部会（仮称）を、利尻山の自然環境保全と登山利用のための企画立案を中心とした「シンクタンク」的存在と考えた場合、対策の実施に関して協議会との関係を大きく捉えると右図のような構図が想定される。

このような構図の中で、検討部会（仮称）を**協議会の下部組織**的な位置づけとするのか、協議会関連団体の影響を受けない**独自の民間組織**的な位置づけとするのか、という2つの大きな選択肢があり、それぞれの場合のメリット／デメリットを考慮して協議会との関係を整理する必要がある。

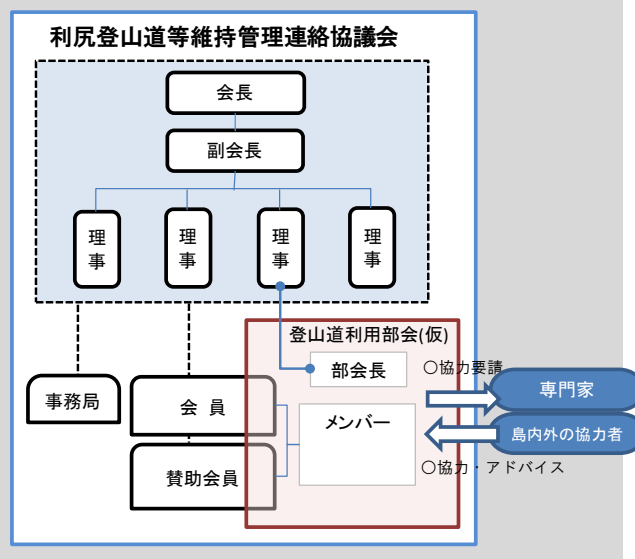


<想定されるデメリットの例>

協議会の下部組織とした場合	独自の民間組織とした場合
<ul style="list-style-type: none"> 立場を離れた発言がしにくい 自由に発言できない雰囲気がある 仕事が忙しくて会議に出られない <p style="text-align: right;">などの心配</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実行力が乏しい メンバーが多忙 狭い視野・机上の論理に陥りやすい メンバーにも温度差がある 対応策の実行性に疑問 最高決定権がない <p>現段階では独自の民間組織を構成するのは無理か？</p>

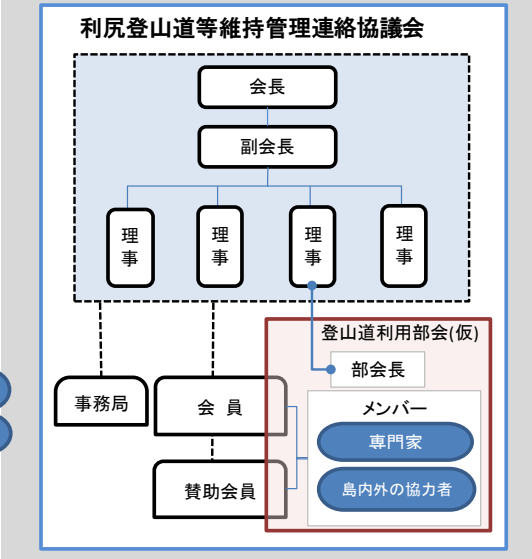
パターンA. 外部連携型

- ＋：部会メンバーが少なく内部マネジメントが簡易
- －：外部に協力を依頼するため対策の迅速性がやや劣る



パターンB. 内部充実型

- ＋：対策を迅速に講じることができる
- －：部会メンバーが多く内部マネジメントが煩雑に。 (部会維持のための労力が増える)



参考 協議会内での位置づけに関する事務局案（第1回検討会資料より）